

2018年10月4日

都市設計特論第2 2018 (担当: 中島直人)

■主題

方法論としての「都市計画史」(planning history as a methodology)

「都市計画史」は、都市計画の研究や実践において、どのような役割を果たしうるだろうか。都市や都市計画に関心のある者に、都市計画史はどのような方法論的視野を与えてくれるのだろうか。本年度の都市設計特論第二では、「都市計画史(planning history)」についての歴史的、理論的な理解を深め、その方法論としての可能性を議論したい。なお、ここでの方法論とは(もちろん「調査の方法」のことではなく)「研究の方法」のことであるが、「研究の方法」に留まるものでもない。研究と実践との関係に踏み込み、「都市デザインの方法」としての都市計画史にまで射程を広げたいと考えている。本講義は、都市計画史や関連領域の研究者によるレクチャー、および主に都市計画史の歴史、方法、主題を包括的に解説した初めての書籍『Routledge Handbook of Planning History』(Carola Hein ed., 2018年)と、我が国の都市計画史の方法論について(極めて粗野な段階に留まるものの)省察と展望を目指した拙書『都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画史ノート』(2018年)をテキストとして、議論を進めていくことにする。

■スケジュール

- 1 10月4日 イントロダクション
 - ・講義概要
 - ・文献紹介
- 2 10月11日 総論:
 - ・講義 中島
 - 「日本近現代都市計画史研究の展開と展望」
- 3 10月18日 論点1 国際史、世界史、グローバルヒストリー
 - ・講義 秋本福雄(九州大学名誉教授)
 - 「Connections and Identities of Planning History of Japan: Looking into World History of Planning」
- 4 10月25日 論点2 都市計画、都市デザイン、まちづくり
 - ・講義 越澤明(北海道大学名誉教授)
 - 「帝都復興計画・戦災復興計画の意義とその遺産～都市計画法 100年と東京まちづくりの課題」
- 5 11月1日 都市計画史ハンドブック1 Part 1
 - ・学際性
 - ・理論
 - ・計画技術
- 6 11月15日 都市計画史ハンドブック2 Part 1
 - ・伝記論
 - ・普及

2018年10月4日

・グローバルシステム

- 7 11月29日 論点3 隣接する個別史学分野の動向と都市計画史1
 - ・講義 阿部貴弘（日本大学教授）
 - 参考：「土木史研究の今：強まる社会との関わり」、土木学会誌 101(4), 2016年4月
- 8 12月6日 論点3 隣接する個別史学分野の動向と都市計画史2
 - ・講義 松田法子（京都府立大学准教授）
 - 参考：「都市史から領域史へ」、建築雑誌、130（1671）、2015年5月
- 9 12月13日 都市計画史ハンドブック3 Part 2
 - ・第2部から自由選択
- 10 12月20日 都市計画史ハンドブック4 Part 3
 - ・第3部から自由選択
- 11 12月27日 都市計画史ハンドブック5 Part 4
 - ・第4部から自由選択
- 12 1月10日 まとめ

■方法

講義：

- ・事前参考資料の読み込み
- ・感想シートの提出

都市計画史ハンドブック：分担(10月11日までに決定)

- ・担当者は議論する回の前の回までに、レジュメを作成し、配布する。
- ・レジュメは全訳が基本。気になる参考文献に目を通し、補足説明の用意をしておく。
- ・履修者は事前に必ずレジュメに目を通してから授業に参加。
- ・議論の当日、担当者が各章の概要、論点（疑問点、深堀点など）を提示する。

■成績評価

- ・授業への貢献度
- ・レジュメ内容

■参考文献

- ・Carola Hein, *Routledge Handbook of Planning History*, Routledge, 2018
- ・中島直人、都市計画の思想と場所 近現代日本都市計画史ノート、東京大学出版会、2018

■連絡先

naoto@ud.tu-tokyo.ac.jp